

2024年度上野千鶴子基金助成金最終報告書（HP掲載用）

1. 助成対象事業	女性学・ジェンダー研究の発展に資する調査、研究、出版
2. 事業の区分	Seedsプロジェクト
3. 氏名/団体名	Where is ____?
4. 事業名	表現の現場における性暴力・ハラスメントおよび二次加害の問題を考えるためのプラットフォームの構築
5. 助成額	
6. 事業実施期間	2024年9月～2025年7月
7. リンク	https://whereis-projectinjapan.studio.site/

8. 事業の目的

本事業は、美術、映画、演劇、音楽など表現の現場で起きる性暴力・ハラスメントおよび二次加害の問題についての議論を日本国内において発展させるための情報を収集・翻訳・発信するプラットフォームを構築することを目的としている。

9. 実施内容

主に以下の三点を活動の軸としながら、Webサイトを通じた情報発信とイベント（対面・オンラインを通じた情報・意見交換の場作りを行った。

- A) クリエイティブ業界における性暴力・ハラスメントの問題について議論を深めるイベントの開催
- B) 議論を広くアクセス可能なものにするためのポッドキャストおよび映像の作成・公開
- C) 事業実施協力者との連携・対談を基にしたWebコンテンツの作成

10. 事業の成果と自己評価

本プロジェクトでは第一に、サラ・アーメッド『苦情はいつも聴かれない』（竹内要江、飯田麻結訳、筑摩書房、2024年）を取り上げ、クリエイティブ業界における性暴力・ハラスメント問題について考える読書会を二回に分けて実施した。読書会では各章を読み解くスライドを準備し、参加者が事前準備なしで参加できるよう配慮したほか、読解に留まらず、各自の経験に引きつけた意見交換も積極的に行った。第一回目はハイブリッド、第二回目はオンラインで開催したが、各回10名、19名の参加があった。終了後のアンケートでは、「これまで漠然と疑問に思っていたことが言語化された」という声や、過去のつらい経験を振り返りつつ、自分が声を上げたことの意義を再確認できたという感想が寄せられた。また、2024年12月28日には1985年に35歳で亡くなったキューバ出身の芸術家アナ・メンディエタをめぐる言説の不可視化の問題に着目し、ワークショップ「アナ・メンディエタの気持ちを想像する」を実施した。メンディエタの制作プロセスを仮想的に体験しながら、表現の現場における性暴力・ハラスメントや二次加害の問題、そして「被害者」としてだけではなく作家として語り続けることの重要性について議論を行った。ワークショップの様子は映像作品として記録し、公開に向け編集作業を進めている。

そして、事業期間の延長を承諾いただいたことで、2025年7月16日にはフェミニスト美術史・アクティヴィズムを牽引する異なる世代の専門家と対話することを目的としたオンライントークイベント「アート業界／アカデミアのハラスメントや二次加害の問題を考える」を実現することができた。ゲストには小田原のどか氏、そして28日には北原恵氏をお呼びし、各回二時間にわたりWhere is ____?メンバーや会場からのコメントを受けて、様々な論点から活発なディスカッションが行われた。平日夜の開催であったが、両日合わせて約150名の参加者に恵まれ、開催後のアンケートではアートの現場に関わる方々から多数の貴重な声が寄せられた。小田原のどか氏との第一回イベントでは、ハラスメント防止や被害当事者支援の活動を行う中で直面する壁にどう持続的に働きかけていくかという点で、その「難しさ」や「失敗」の経験も含めて率直に議論を行ったこともあって、本イベント自体を参加者それぞれの経験や困難を捉えなおすための「ケアの場」のように感じ、「励まされた」といった声が多数寄せられた。第二回の北原恵氏とのイベントでは、「ジェンダー論争」が起きた90年代の状況について、Where is ____?メンバーをはじめ当時を知らない世代の参加者とともにいま一度学び、2025年現在の日本のアート業界／アカデミアが持つ構造的問題を連続的に捉え直すことを目指した。90年代当時の状況について知って「衝撃」を受けたという声や、これまで日本でフェミニストが推し進めてきた理論や実践の「歴史」に想いを馳せるコメントも多く見られた。また、これら一つひとつのイベントを一過性のものにせず、参照可能な形でアーカイブし、議論を深めていくために、社会問題にアプローチするデザ

インを得意とするデザイナーのito氏に協力を仰ぎ、団体のウェブサイトのリニューアルを進めてきた。ウェブサイトでは、これまでに公開したレポートや、ポッドキャストといったリソースを今一度整理した上で、今回助成を受けて実施したトークイベントの記録も発信していく。これまで多くの方々の協力のもとWhere is ____?の活動を通して蓄積することができた情報・議論を一層開かれたものにすることを目指したい。

11. 成果物

- A-1. 「サラ・アーメッドはどこ？—『苦情はいつも聴かれない』読書会」（第一回）および「アナ・メンディエタの気持ちを想像する」ワークショップの開催（バイソングギャラリー（神戸市）およびオンライン、2024年12月28日）——a. 読書会広報物 b. 記録写真 c. アンケート自由記述抜粋
- A-2. 「サラ・アーメッドはどこ？—『苦情はいつも聴かれない』読書会」（第二回）（オンライン、2025年1月24日）——a. 読書会広報物 b. 記録写真 c. アンケート自由記述抜粋
- A-3. 「アート業界／アカデミアのハラスメントや二次加害の問題を考える」（第一回）（オンライン、2025年7月16日）——a. イベント広報物 b. 記録映像 c. アンケート自由記述抜粋
- A-4. 「アート業界／アカデミアのハラスメントや二次加害の問題を考える」（第二回）（オンライン、2025年7月28日）——a. イベント広報物 b. 記録映像 c. アンケート自由記述抜粋
- B-1. 「アナ・メンディエタはどこ？」ポッドキャストエピソードの公開（2025年1月27日）——a. ポッドキャスト再生ページのキャプチャおよびリンク b. 再生数キャプチャ
- B-2. 「アナ・メンディエタはどこ？」活動紹介／記録ドキュメンタリー映像の制作——a. 記録映像キャプチャおよびダイジェストへのリンク
- B-3. 「アナ・メンディエタの気持ちを想像する」ワークショップの記録映像の制作——a. 記録映像キャプチャ
- C-1. 複数のプラットフォームでの活動の紹介・周知—— a. b. c. d. e. 記事各種
- C-2. 事業実施協力者と連携に基づくコンテンツ制作——a. 事業実施協力者によるテキスト b. 取材用資料の一部抜粋
- C-3. プラットフォームとしての「Where is ____?」の充実化——a. メールマガジン（12月23日配信）
b. メールマガジン（1月18日配信） c. ブックリスト記事
- C-4. 「Where is ____?」ウェブサイトの整備——a. デザインモックアップ

以上